

■山口市長より年頭のご挨拶をいただきました。

# 『新たな挑戦 元気山口』

山口市長 伊藤 和貴



山口商工会議所の皆様、新年明けましておめでとうございます。

令和8年の新春を迎え、謹んで新年のお喜びを申し上げます。

山口商工会議所におかれましては、物価高の影響を受ける市内事業者の皆様への各種支援策の実施や、経営改善に向けた相談支援など、きめ細やかな御対応をいただくとともに、市の更なる発展に向けて、本市とともに、中心市街地の活性化や、公共交通の利用促進のほか、「レノファ山口FC応援プロジェクト」を始めとした様々な交流創造の取組を通じた、地域経済活性化に取り組んでいただいておりますことに、心から感謝を申し上げます。

さて、私は、昨年10月の市長選挙におきまして、市民の皆様をはじめ、各方面の皆様方から力強い御支援、御支持をいただき、2期目となる市政をお預かりすることとなりました。改めて、その責任の重さに身の引き締まる思いをいたしております。

本年は、私の2期目の任期の実質的なスタートの年であります。

こうした中、まず、山口都市核づくりでは、昨年5月、市民サービスの拠点となる新本庁舎棟が開庁いたしまして、今後はいよいよ、パークロードに接する庁舎前広場や、市民交流棟の整備を進めてまいります。こうした基盤整備と並行するかたちで、パークロード周辺に集積する教育文化機能の連携強化や、まちなかウォークアブルなどの取組を通じて、中心市街地一帯の回遊性を高めてまいりたいと考えております。

また、湯田温泉におきましては、昨年12月にグランドオープンした、猛暑や雨天でも安心の屋根付き公園「湯田温泉こんこんパーク」を始めとした、観光地域づくりに資する基盤整備を進めてきたことで、新たなにぎわいが生まれ、民間投資の誘発が始まっているところです。今後につきましても、道路の美装化や修景整備を通じまして、おもてなし機能の向上を図ってまいりたいと思います。

小郡都市核づくりでは、産業交流拠点施設や市街地再開発への支援など一連の社会基盤整備を進めてきた中で、令和7年地価調査において、新山口駅周辺の商業地基準地価の上昇率が、5年連続で県内1位となるなど、基盤整備の効果を感じ

ているところでございます。加えて、出店補助や融資制度を創設し、飲食・小売機能や滞在機能の集積を図ってまいりますとともに、駅周辺の駐車場不足への対応に向けた検討など、更なる発展を目指す取組を進めてまいります。

さらに、小郡や南部地域における交通利便性という地域特性を生かし、人口減少時代にあっても、エリア全体として人口を1万人増加させていくようなプロジェクトとしての、仮称「南部10,000人プロジェクト」を進めてまいりたいと考えております。

加えて、消費喚起や、中小企業等の経営基盤強化、省人化・省力化機器や省エネ機器等の導入支援を進めてまいりますほか、農林水産業の振興、道の駅仁保の郷の機能強化・道の駅あいおの移転整備を、引き続き、着実に進めてまいります。

そして、広域ネットワークの機能強化としましては、国において、国道9号における木戸山道路改修や、国道2号の台道・鑄銭司拡幅が進められているところでございます。こうした事業と連動しまして、沿線における民間投資が進んでいくことを期待しているところでございます。

一昨年の米ニューヨーク・タイムズ紙への掲載、昨年「地球の歩き方 山口市」の発刊、そして、本年の山口DCという流れを途切れさせることなく、歴史文化を始めとした本市固有の魅力をもっと高め、発信いたすなど、山口商工会議所を始めとした関係者の皆様とともに、しっかりと盛り上げていきたいと考えております。

そして、こうした取組を進めつつ、一定程度の人口減少が避けられない中であっても、「ずっと元気な山口」を実現するため、都市全体の「元気度を上げる」、「選ばれるまち」になる、「まちをスマートに」という、大きく3つの視点を踏まえた「新たなまちづくりモード」の取組もスタートさせてまいります。

このような考え方のもと、本年を、「新たな挑戦 元気山口」の年と位置付け、「ずっと元気な山口」の実現に向けたまちづくりを進めてまいりますので、御理解と御協力を賜りますようお願い申し上げます。

本年が、皆様にとりまして、幸多い年となりますことを祈念いたしまして、新年の御挨拶といたします。